＜先週の説教から＞

『ヘブライ㉝ー信仰とは何か？』

武田真治牧師

詩編 ３３：１～１１　ヘブライ書 １１：１～３

いよいよ今回からヘブライ人への手紙 11 章に入ります。おそらくこのヘブライ書の中で最もよく知られた箇所ではないかと思います。特に、この章の冒頭の言葉「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」は説教の聖書箇所や信徒の方たちの証しや奨励の箇所だけでなく、教会の標語聖句やご葬儀の言葉としてもよく用いられます。ただ、それだけに実は様々な解釈や翻訳が存在しています。その原因となっているのは「確信」という言葉なのです。ここで使われているギリシア語は（ヒュポスタシス）で元々の意味は（基礎や土台）を表し、そこから表面の装飾や目に見える上物を取り除いた（本質や実体）とも訳される言葉です。実はこのヘブライ書でも１章３節ではこの言葉が「(神の) 本質」と訳されており、しかも、他の箇所では「確信する」という意味で別の言葉が使われてもいるのです。故にいろいろな翻訳が可能になるのです。

加藤常昭先生が著しておられるヘブライ書の説教集ではここを「確信し」と訳し始めたのは宗教改革者のルターであり、以後この訳が定着したとあります。そしてこの訳を踏襲して行くことがプロテスタントの伝統になったと。ただ、その上でこの翻訳の問題点も指摘されています。それは『確信といえば、それは自分の信念のことだと思い込む』ことではないかと。つまり、人が自分でこれが正しいと思い込むこと（＝確信）が信仰であるとだけ考えてしまう点です。これは何が問題かと言えば、自分が“信じている状態”を信仰と捉えてしまい、その“信じる対象”はどうでもよくなるのではないでしょうか。それは、まさによく聞くことわざ『鰯の頭も信心次第』に陥ってしまいますし、昨今、とりざたされている“宗教＝洗脳”になってしまいます。

この点で、実は大事なのが１節後半の行「見えない事実を確認することです。」なのです。ここで“見えない事実”とは何より神様のことであり、その神様の導きや私たちへの愛やみこころでしょう。それをその後も「確認する（＝原意は「吟味する」）」ことが「信仰」の中に入っていると言われているのです。これが抜けてしまったなら、単なる信念や思い込みになってしまい、『ただ信ぜよ』と叫ぶだけに陥ってしまうのです。この「確認」こそ、私たちが信仰生活を送って行くで、与えられる学びや経験を通して何度も為していくことに違いありません。それこそが私たちひとり一人に注がれている《聖霊の導き》となるのでしょう。

この「信仰」によって生きる時に、次の２節の言葉「信仰によって、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見ているものからできたのではない（＝目に見えないっものが創られた）ことが分かるのです」という点を私たちひとり一人が確認していくことではないでしょうか。更に良き確信へと導かれていくことを願いながら！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．12月 14日（水）20：00
Ⅱ．12月 15日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　求道者会を覚えて
担 当 者：　（水）岩井　（木）佐々木
祈りに覚える人：　阿部さん　　阿部さん
ハンナの会：12月 13日（火）10：30～

【教勢報告】

主日礼拝　　男　20　　女　57　　計　77
祈祷会 Ⅰ．男6　女2　計8　　Ⅱ．男2　女9　計11
日曜学校　　幼稚科　12　　小中科　15　　計27

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週礼拝】　１２月　１８日（日）

聖　書：　創世記　２１：１～８
ヘブライ人への手紙　１１：８～１２
説　教：「ヘブライ㉟ ― 約束を信じて
旅する者たち」　武田 真治 牧師
讃美歌：２４２(１～４)、２４８(１)、３２(１)、257(聖歌隊)、
４７１(１～３)、４５７(１～３)、８８(１)

【次週当番表】

司式:岩佐長老　奏楽:勝村　礼拝:金刺長老
献金：吉澤　山中　　受付飯島　吉岡
会堂準備：小杉 富澤 長田 橋本 北條
看板：曾我　　週報：吉岡　　お花：羽倉

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：オリブの葉編集委員会・日曜学校教師会
幼稚園理事会・聖歌隊練習

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　１２月　１１日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/